

事業所における自己評価総括表

事業所名	大田区立障がい者総合サポートセンター 放課後等デイサービス	
保護者評価 実施期間	令和7年12月15日 ～ 令和8年1月16日	
保護者評価 有効回答数	対象者数：21名	回答数：17名
従業者評価 実施期間	令和8年1月5日 ～ 令和8年1月16日	
従業者評価 有効回答数	対象者数：7名	回答数：7名
事業者における自己評価総括表 作成日	令和8年2月20日	

分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取り組み等	さらに充実を図るための取り組み等
1	区立施設であり学校との連携がとりやすい	学齢期の発達障がい支援事業として実施しているため、常に在籍校との情報共有に努めている。このため、学校訪問の日程調整も円滑に進めることができている。	放課後等デイサービスの役割、こどもの特性に応じた環境調整の重要性や支援の工夫について、情報交換できるような取り組みができるとよい。対面でのやり取りが難しい場合は、書面にして伝えるなどの方法を検討する。
2	放課後等デイサービス専用スペースに加えて、未使用時に使える作業療法用デイルームがある	スケジュール調整をして、使える設備を最大限有効活用している。静と動のプログラムで部屋の使い分けをしたり、3～5名の小集団に分けて活動したりしている。	こどもたちの利用希望が高く、使用時間や方法の説明が伝わりにくいことがある。スケジュールやルールの可視化をSSTの一環として行っていく。
3	専門的視点からの助言を支援に活かせる環境がある	発達障がい支援事業の一環である個別支援を担当する公認心理師、作業療法士、言語聴覚士を機能訓練担当職員として非常勤で配置している。こどもの特性に応じて、必要な助言を得て支援に活かしている。相談支援事業所も併設されており、ニーズを共有することで利用期間終了後の支援が切れ目なく行われるようにしている。	SST、運動療法、学習などのプログラムにおいて、機能訓練担当職員が支援を直接実施する仕組みを構築する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
1	環境調整に制約がある	出入口に鍵がない、エレベーターに自由に入出りできる、呼出ブザーを緊急時以外でも押せるなどの状況がある。こどもの衝動性を助長させないための環境調整に制約がある。子どもが不安定になった際のクールダウンスペースがない。	物理的な環境調整を一つずつ実施していく。こどもへの注意が否定的注目にならないように、事前予測を図るなど職員間での対応を統一する。
2	利用期間に制約がある	多くの区民に公平にご利用いただくため、1年間の有期限利用となっている。待機を生じさせない状態を維持しつつ、期間延長する判断が難しい。	1年間という有期限であるからこそ、今最優先の課題に焦点を当てることができる。課題を解決するということではなく、課題対処への道筋をつけることを意識した支援をしていく。
3	人材育成の仕組みが整備されていない	求められる知識や経験を段階的に習得していけるような人材育成の仕組みがない。	B棟全体で人材育成計画を継続的に検討する教育委員会を立ち上げ、研修や学会への参加を計画的に進めていく。